

## 令和2年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

### 成果報告書

団 体 名	豊中市市民ホール指定管理者 JTБ・日本センチュリー・日本管財・大阪共立グループ (代表団体) 株式会社 JTБ コミュニケーションデザイン	
施 設 名	豊中市立文化芸術センター	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	4,604	(千円)
公演事業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	4,604	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	こどもクラシックの日 2021	令和3年3月20日 令和3年3月21日	ラヴェル「ピアノ協奏曲ト長調」他 作曲家・ガイド：加藤正則、ピアノ： 仲道郁代、指揮：横山奏、管弦楽： 日本センチュリー交響楽団	目標値	1,500
		豊中市立文化芸術セン ター大ホール他		実績値	1,636
2	針山愛美ダンスプロジェ クト Vol.4	令和3年3月13日 (土)	チャイコフスキー作曲「眠りの森の 美女」より抜粋、他 指導・構成：針山愛美、アシスタン ト：大和奏・鳥居ありす ほか	目標値	入場者： 400、参 加者数 50
		豊中市立文化芸術セン ター中ホール（アクア 文化ホール）		実績値	入場者： 308、参 加者数 90

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

豊中市の次世代育成の基本方針（こども未来プラン・とよなか）でも、様々な体験を通して子供達を育成することがうたわれています。家族そろって、友達と一緒に楽しめる春休み「こどもクラシックの日 2021」は、「わくわく、ドキドキがつながっていく」をテーマとし、これからの文化・芸術を担っていく若い世代に、知的好奇心を刺激し、自ら積極的に音楽体験を追求する機会を提供します。そのような点において、本事業は、基本方針のニーズに沿ったものと言えます。

また、豊中市に住む子供達と当センターレジデントアーティストが、数カ月に及ぶワークショップを経て一緒に作り上げる手作りコンサートの開催や、夏休みに実施予定だったワークショップの代わりに行う、ライブ配信での「音楽の質問箱」で集まった内容などを基にオリジナル公演を作るオーケストラコンサートなど、子供達が聴く体験だけではなく、プロの演奏家や作曲家と協力して、ひとつのモノを創り上げるワークも実施。特別なイベントとして実施する本事業は、文化芸術への興味を育むシーズ（種）を彼らの心の中で発芽させるきっかけとなります。回を重ねるごとに子供向けイベントの参加率もあがっており、非常にニーズの高い分野です。

さらに、音をテーマとした様々なワークショップ、楽器のヒミツを知るショータイプの講座や楽器体験など、豊中オリジナルの子供対象の音楽イベントとして、地域のホールとして親しみを持ってもらい、市のブランド創りに貢献します。

豊中市は沿線に宝塚歌劇団があり、そのためか全国有数のバレエスタジオや、ダンススタジオが点在。また私学では舞台芸術専攻の学校もあり舞台芸術を学ぶ環境が整っています。講師の針山愛美も豊中市内の学校に通っていたこともあり地元の豊中で舞台芸術を通じ恩返しをしたいという思い、それを具体的に実行できる会場として豊中市立文化芸術センターが存在し、開館当初からバレエのワークショップを毎年開催。当館では市民と共に文化芸術を新たに創造・発信していくことを通して、心豊かな市民生活や活力ある地域社会の実現に寄与する拠点施設となることを目指していますが、その具現化したプロジェクトのひとつがこの「針山愛美ダンスプロジェクト」になります。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「こどもクラシックの日 2021」は子育て世代が多く住む豊中市において、親子で楽しめるイベント、こどもが主役になるイベントへのニーズは非常に高い事を背景に企画され、当センターにおいて音楽に気軽に触れる機会を提供しています。また本事業では豊中市にゆかりを持つ、当センターのレジデントアーティストをロビーコンサートやワークショップのゲストに起用。加えて豊中市在住のアトリエ主宰やダンサーもワークショップのファシリテーターとして起用しています。

「針山愛美ダンスプロジェクト」では世界的バレエダンサー針山愛美が、ダンスへの習熟度に関係なく市民がダンスに参画する機会を提供しています。内容も画一的な指導ではなく個性を尊重し、指導者と受講者、あるいは受講者同士が協議し、表現豊かな創造性を育むと共に協調性・自立性を養い個性豊かな人間形成を確立させることを趣旨とします。バレエを中心にあらゆるジャンルのダンスや即興舞踊、パントマイム等全ての舞台芸術や身体表現を駆使し心身の育成に寄与します。バレエスタジオ等では決してできない公共施設ならではの手法で、ジャンルの違いや個々のレベルを越え、新たな舞台創造を展開します。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

こどもクラシックの日 2021 について、より多くの子供たちへ音楽体験を届けるため、サテライトイベントを含む総参加者数の増加を図る事を指標とします。8 月および 11 月のサテライトイベントを含む総参加者数は計 1,636 名となり、2017 年度 618 名、2018 年度 1,445 名と比して増加。特に、ワークショップ参加者数に関しては、11 月のワークショップ・連続ワークショップ・3 月のメインイベントのワークショップの定員 93 名のところ、約 8 割にあたる 75 名が参加。各公演定員の 6 割の目標に対して 133%の達成率となりました。毎年度継続して関連事業を行う事で、認知度が向上、恒例事業として周知され始めていると同時に、年間を通じて関連事業を行う事で 3 月のメインイベントまで興味関心を喚起し続けられたと考えます。また、3 月 20 日にはメインイベントと並行し、申込不要イベントとしてクイズラリーに加え、楽譜の記号に触れながら学ぶインタラクティブコーナーを実施。クイズラリーの参加者 91 名、インタラクティブコーナー 243 名、計 334 名が来場。2018 年度の参加者 101 名に比して、約 3 倍の増加となり、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各種イベント定員を 50%にしているにも関わらず総参加者数の増加に寄与しました。

2 つ目の指標として、豊中市内からの来場者および市外からの来場者の増加を掲げました。上記のように参加者総数は 1,636 名となり、2018 年度に比して増加。また、各イベントのアンケートに準拠すると、2018 年度開催「こどもクラシックの日」と比して、豊中市外からの来場者が占める割合は 19%から 30%に上昇し、158%の増加となった。特に 0 歳からのコンサートでは豊中市外からの来場者が増加しているため、0 歳からが対象の事業の需要の高さが顕著に表れました。

最後に、過去のノウハウを活かし、全館を使ったイベントとして、これまでになかった面白さを提供し、2020 年度時点では指定管理者の一員であり、また街のプロオーケストラでもある日本センチュリー交響楽団と市民をつなぐ工夫を凝らす点についても目標としました。8 月実施の「おんがくのしつもんばこ」はライブ配信で行い、日本センチュリー交響楽団メンバーの演奏を交え、予め SNS 等で募集した質問やリアルタイムで募ったコメントの質問に答えました。無料ライブ配信のため、来館が難しい視聴者も参加可能であり、かつ作曲家や楽団員と市民を直接つなぐ試みを実現し、高い公演成果を得ました。

針山愛美ダンスプロジェクト Vol.4 については、集客（入場者）について 400 名の当初目標に対し、出演者に 1 枚ずつ配布した招待券を含めると来場者は 308 名、有料入場者数は約半数の 218 名と、目標に対して約 50%の達成に留まりました。これは新型コロナウイルスの感染症拡大予防対策として会場の客席を 50%に設定し、舞台に近い前方 2 列を使用不可にして予防策を十分に施したうえで販売したための影響もあります（総客席数は 495 席）。本来であれば、より多方面に広報をし、出演者などの関係者以外の興味を喚起し、更なる集客が見込めた状態でしたが、出演者の家族や友人などの関係者でこれだけの入場者になりました。

一方、参加者数は目標の 50 名に対し、実績は 84 名と 168%の達成度となりました。この 84 名は発表会に参加人数であり、2020 年 12 月から開始しワークショップの参加者は、単発での参加者を含め 92 名。このうち 8 名ほとんどが新型コロナウイルスの影響によりワークショップ受講を断念した人でした。毎年開催している本事業のワークショップと発表会の参加を目指している人は年を追うごとに増加しています。継続して開催している成果が表れています。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

「こどもクラシックの日 2021」計画当初の事業期間としては、サテライトイベントとして8月23日「作家・加藤昌則の音楽の質問箱!!」をライブ配信、11月22日音楽ワークショップ（仮題）、10月から「わたしたちのクラシックコンサートをつくろう!」連続ワークショップの開始、本イベントは、3月20日、3月21日に実施を予定していました。実施実績としては、サテライトイベント8月16日「おんがくのしつもんばこ」ライブ配信、秋のワークショップ・コレクションとして11月22日に2つのワークショップを開催。連続ワークショップ「みんなでコンサートを作ろう!」は2020年11月21日、11月22日、2021年1月24日、2月28日、3月14日、3月15日の計6回開催。メインイベントは2021年3月21日・22日に実施し、10月から開始予定だった連続ワークショップ以外はほぼ当初の計画通りに開催。

本事業の予算段階では収入4,940,000円（他所助成金3,700,000円含む）支出8,136,000円としており、決算時に、収入4,559,010円（他所助成金3,703,850円含む）支出8,278,010円となり、助成により予定内容は実現出来、ほぼ計画通りに実施出来ました。想定総入場者数はサテライトイベント数の増加もあり、2018年度から10%増とし、約1,600名としており、実績として1,636名となり103%の達成。なお収入が減じたのは、入場料500円や入場無料のイベントの集客が多く、大ホール開催のメインコンサートをおとな300名、3人に1人はこどもを2名連れての来場を想定していたところ、実際にはおとな約250名、こども約200名の来場に留まったためと考えます。年間で断続的に関連事業を行う事により、関心のある顧客層に直接本事業の広報活動を行うという計画通り、入場無料のイベント等では一定の来場者数を維持出来た一方、メインコンサートに出演した仲道郁代らの知名度を活かした、より積極的な広報が実現できなかった結果であると分析します。

次に「針山愛美ダンスプロジェクト」計画当初の事業期間としては、全6コース設定、2020年12月19日・20日・26日・27日、2021年1月10日、2月7日・14日・21日・23日・27日、3月7日・12日の計12回のワークショップと3月13日アクア文化ホールにおける発表会を予定していました。実施実績としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、1コースの参加人数を縮小するため、同レベルのコースを2つに分割し、全10コースでのワークショップを開催。ほぼ当初の計画通り開催出来ましたが、1月9日に追加でワークショップを行い、各コースのワークショップ実施回数が基本的に5回となるよう変更しました。

本事業の予算段階では収入2,115,000円・支出4,599,000円としており、決算時に、収入2,049,000円・支出3,236,117円となりました。

想定入場者数の根拠としては、公演が実施できた2018年度には319名の来場者があり、加えて、助成を受けた事で入場料を例年一般料金1,500円のところを1,000円と低く設定する事が出来たため、ホール定員の約9割を超える400名を目標として設定しました。実際には出演者に配布の招待分含めた総入場者数は308名、有料入場者数は218名となりました。

ワークショップ参加者数は90名となり、目標である参加率80%に対して112%の達成率となった一方、上記のように入場者数は目標を達成できませんでした。全国有数のバレエスタジオ、ダンススタジオが市内に点在し、舞台芸術専攻のある私立の学校もあり、舞台芸術を学ぶ意欲のある層に積極的に広報するとともに、当初予定していた、当センターSNS等における活動の報告を実現できなかった結果であると分析します。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「こどもクラシックの日 2021」において、2020 年度時点では指定管理者事業に参画していた日本センチュリー交響楽団が大きな役割を果たしました。豊中市内に練習場があり、2011 年に公益財団法人日本センチュリー交響楽団として大阪府から独立、2019 年 12 月に楽団創立 30 周年を迎えた日本センチュリー交響楽団は、本年度は 3 月開催の大ホールでのメインコンサート、および 8 月開催のライブ配信に出演いたしました。現在は 50 名のメンバーが在籍し、飯森範親が首席指揮者、秋山和慶がミュージックアドバイザーを務め、2021 年 4 月より久石譲が首席客演指揮者に就任。豊中市立文化芸術センターでの「豊中名曲シリーズ」を年 4 回開催する他、大阪府下他所でも定期的な演奏会を開催。ジャンルを超えた様々な形態のコンサートにも積極的に取り組み、依頼公演、室内楽コンサート、学校公演等を合わせて年間 200 回を超える公演を行い、ハイドンマラソンのライブ録音「ハイドン交響曲集 Vol. 1、Vol. 8」や飯森範親との「大地の歌」がレコード芸術特選盤に選ばれ、また 2 度にわたり大阪府文化祭奨励賞を受賞する(2015 年度、2018 年度)など、演奏活動は高い評価を得ています。オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」、特別支援学校コンサート、ユースオーケストラの運営といった次世代への教育プログラムも積極的に行い、「豊中まちなかクラシック」(豊中市)等、身近なオーケストラとして市民に親んでもらうための地域連携事業にも力を入れています。当センターでは、豊中市との共催事業である、ワークショップを経て市民と共演をする「世界のしょうない音楽祭」、それぞれ楽器を持ち寄り音楽家と演奏する「家族でオーケストラ」に参加。2017 年度から「こどもクラシックの日」には、コンサートへの出演だけでなく、楽器体験会に毎年参加いただいております。そのノウハウを、2020 年度は特に SNS で事前に募集した質問やリアルタイムで募った疑問にプロの音楽家が答えるライブ配信「おんがくのしつもんばこ」で活用いただきました。

他方、「針山愛美ダンスプロジェクト Vol. 4」においては、バレエダンサー針山愛美に大きな役割を担っていただいております。豊中市立文化芸術センターでは 2017 年の開館以来毎年継続して「針山愛美ダンスプロジェクト」を開催している他、針山愛美豊中プロジェクトとして針山愛美ベルリンフィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリニストのホルム・ビルクホールツとの「デュオ・ベルリン」を開催、また東京バレエ団を招聘した際には子ども役を公募し、地元の人々をはじめ関西一円から多くの人々が受験にきました。また 2020 年度はベルリン国立歌劇場の元芸術監督であるウラジーミル・マラーホフ氏を招聘し、世界初演を含むマラーホフ氏の演出作品をオーディションで公募したところこれも同じく地元のバレエ団をはじめ関西一円から応募がありました。このように、針山愛美によるプロデュース、豊中市立文化芸術センターから発信するバレエ公演は完全オリジナル作品で創造性に富み、それらが年を追うごとに認知されてきており注目されています。2021 年度からは当センターの舞踊部門プログラムディレクターに就任し、今後も豊中市立文化芸術センターのブランド力の向上とオリジナリティを最大限に発揮した公演を目指します。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

「こどもクラシックの日 2021」においては、大ホールにおけるメインコンサートでは、日本センチュリー交響楽団による水準の高い演奏を提供するだけでなく、作曲家である加藤昌則に公演自体のプロデュースと公演中のガイドを担ってもらい、楽曲の解説をも観客が楽しむことが出来る内容を実現させました。加えて助成を受けた事により、当センター大ホールのピアノを選定した仲道郁代の出演が実現し、高い水準の演奏を提供することが出来ました。また 2018 年度、2019 年度と実施し好評を得た、ピアノの内部構造等を解説する「ピアノ解体ショー」を、これまで当センターでも様々な主催公演やアウトリーチ事業でお願いしたピアニスト中川賢一と調律師荒木欣一とで再度企画、ホールの座席でも見やすいようビデオカメラでリアルタイムで撮影した映像をスクリーンの投影、事前に準備したパワーポイントと様々な映像資料を多用することで、よりショーとしての特性を高めた公演を実現いたしました。

また新型コロナウイルス感染拡大化の中での新たな試みとして、8 月には無料ライブ配信を実施。日本センチュリー交響楽団メンバーの演奏を交え、予め SNS 等で募集した質問やリアルタイムで募ったコメントの質問に答える内容であり、無料ライブ配信のため、来館が難しい視聴者も参加可能となり、かつ作曲家や楽団員と市民を直接つなぐ試みを実現出来ました。加えて、ファシリテーターの元、ワークショップ参加者である子どもたちとプロの音楽家であるレジデントアーティストが協同でコンサート企画を企画するワークショップも実施。連続 6 回と限られた時間の中で、今回は企画・演出分野に注力し、参加者も舞台上でプロの音楽家と共演するプログラムとなりました。結果として、参加者・アーティスト・ファシリテーター全員が不可欠な公演となり、高い公演成果を得ることは出来ました。

また本事業は当センターのレジデントアーティストが連続ワークショップなどにおいて、ファシリテーターとともに積極的な役割を果たし、演奏だけでなく音楽家の活動を実際に携わる場となっています。そのファシリテーターには豊中市在住のダンサーやアトリエ主宰者を採用し、地域の人材との関わりを継続しています。

11 月のワークショップ、3 月のメインイベントにおいても、公演記録として写真撮影は行い、当センター SNS や当センター情報誌等でアーカイブとして残すとともに、恒例事業として記録を蓄積しています。

針山愛美ダンスプロジェクトの最大の魅力は画一的な指導ではなく個性を尊重し、指導者と受講者、あるいは受講者同士が協議し、表現豊かな創造性を育むと共に協調性・自立性を養い個性豊かな人間形成を確立させることを趣旨とします。ワークショップにおいては、バレエを中心にあらゆるジャンルのダンスや即興舞踊、パントマイム等全ての舞台芸術や身体表現を駆使し心身の育成に寄与します。例えば音楽を聞きそのイメージを身体で表現したり、バレエとダンスを融合させたオリジナルの身体表現を創作して見たり、身体全体を使って大きな壁画にペインティングをしたり等、バレエスタジオ等では決してできない公共施設ならではの手法で、ジャンルの違いや個々のレベルを越え、新たな舞台創造を展開します。また主に年齢や習熟度によりコースは分けていますが、コース内では参加者の年齢の幅が大きいこともあり、発表の場においては全コースが協同で舞台を作り上げるため、年齢や習熟度を越えた交流が生まれています。

本事業においても、ワークショップの様子は記録として写真撮影は行い、3 月 13 日の発表会において、公演記録として映像撮影も行い、当センター SNS や当センター情報誌等でアーカイブとして残すとともに、恒例事業として記録を蓄積しています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

2020 年度に助成を受け、「針山愛美ダンスプロジェクト Vol. 4」および「こどもクラシックの日 2021」がほぼ計画通りに実現し、その点も高評価につながり、指定管理第 2 期（2021 年度～2025 年度）を継続して行う事が決定しました。指定管理料も年間約 308,104,000 円から、414,514,200 円に増加し、事業予算も年間 24,000,000 円から 39,000,000 円に規模が拡大した。それに伴い、事業運営に関わる人材配置に関して、2021 年度からは事業担当者を 6 名から 7 名に増員。キャリアマップのそれぞれのフェーズで、次のステップに必要な教育プログラムを提供（キャリアアップ研修・ビジネススキルアップ研修）、また全国で開催されるアートマネジメント研修への積極的な参加を予定しています。特に新たな職員の 1 人は広報専任として育成し、自己評価において不足が考えられたマスメディアに対する広報に、2021 年度以降は積極的に取り組み、当センターおよび本事業の存在の周知を図り、参加者および来場者の増加につなげ、本事業の継続を図ってまいります。

友の会の有無や入会数の推移では、新型コロナウイルス感染拡大影響を大きく受けている。コロナ禍前は、常時 1,200 名の会員数を推移していたが、現状は 500 名強なっている。コロナ禍の収束後、多ジャンルにわたる公演と、こどもクラシックの日や針山愛美ダンスプロジェクトを通して、アートと市民との接点を創出する事で、館としてのファンを増やし、2025 年度で 1,500 名までの回復を目標として、現在 2022 年度の事業を組み立てている。

助成金の獲得としては、これまでも地域創造で「公共ホール音楽活性化支援事業」（現在 3 年目）や創造プログラムで助成金を獲得しており、また、アサヒ芸術文化財団や野村財団などの私設助成金の獲得も継続的に行っており、より多角的でオリジナル性が高く、またアーティストと市民を繋げる事業基盤を強固なものとしていく。

針山愛美ダンスプロジェクトはホール開館以来毎年継続して公演をしてきましたが、今後もこのプロジェクトは継続します。このダンスプロジェクト以外には 2019 年度は東京バレエ団を招聘し、子役を募集したところ 68 名の応募がありその内 8 名が東京バレエ団と共演しましたが、この時オーディションの審査は針山愛美に依頼し、その後の指導もお願いしました。また 2021 年度より針山愛美をホールの舞踊部門のプログラムディレクターに就任して頂き、これまで以上に強固な関係を継続していきます。今年度はウィーンよりベルリン国立バレエ団の芸術監督も務めたウラジーミル・マラーホフを招聘し、世界初演を含む意欲的な公演を開催します。以後もこのように年間を通じて針山愛美とは良好な関係を継続することにより今後さらなる発展を展開していきます。